

中韓貿易構造の変化と中韓FTA —吉林省の事例を中心に—

ERINA 調査研究部研究主任 朱永浩
延辺大学経済管理学院准教授 崔文

はじめに—研究の背景と目的

中韓両国は、冷戦が終結した後の1992年8月に国交を樹立した。以来、図1に示すように、両国の貿易関係は急速に拡大している。中国では、1992年の「社会主義市場経済」への移行、2001年の世界貿易機関（WTO）加盟を経て、経済は高成長を遂げている。一方、拡大する市場を重視する韓国企業は、中国の「世界の工場化」、「世界市場化」にうまく対応してきている。その間、中韓両国は国交樹立時の「友好協力関係」から、「21世紀に向けた協力パートナーシップ」（1998年）、「包括的協力パートナーシップ」（2003年）、「戦略的協力パートナーシップ」（2008年）へ着々と関係を強化していった。

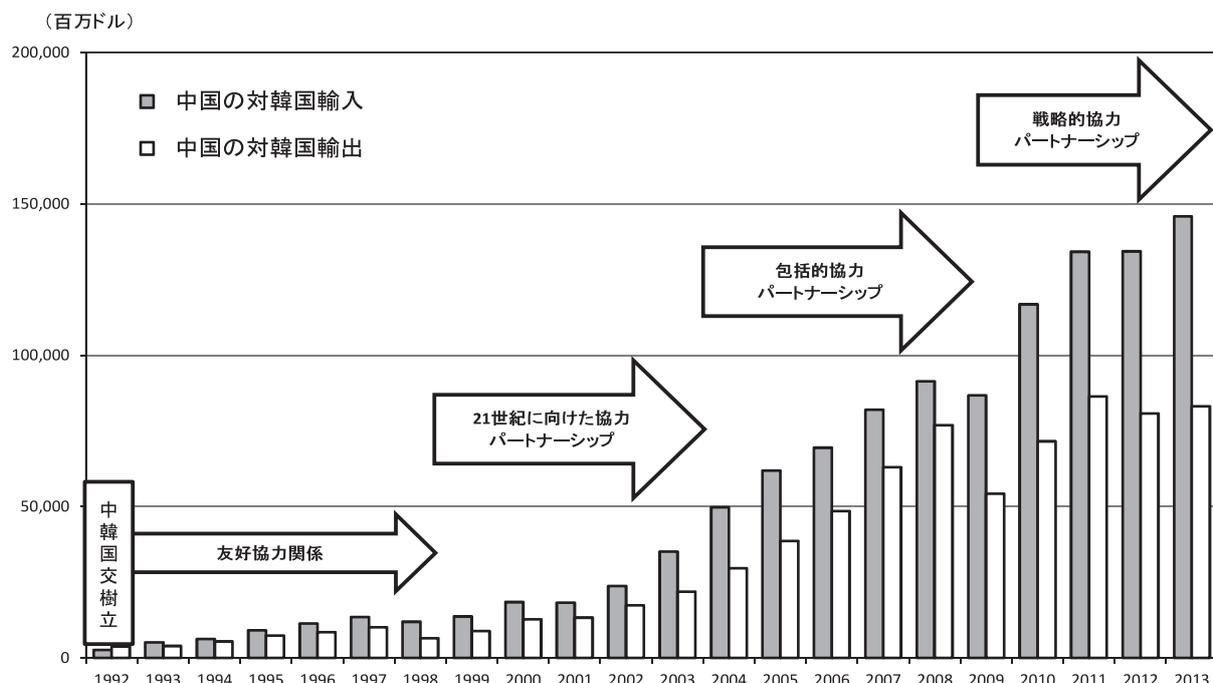
2000年代以降、中韓両国は、自由貿易推進のための手段としての自由貿易協定（FTA）締結に向けて積極的に取り組んでいる。中韓FTA構想は、2004年の両国首脳会談の際に初めて提起された。中国にとって中韓FTAは、対

外貿易において大きな影響力を持つFTAになると同時に、東アジア共同体（もしくは、東アジア経済共同体）の構想にも影響を与える。そして、韓国にとって中韓FTAは、モノ貿易、サービス貿易、直接投資において大きなチャンスを提供することになる。

中韓FTAに関する代表的な研究には、劉昌黎（2008）、蔡蕊（2008）、許興鎬（2009）、魏巍（2010）、車松虎（2010）、이장규（2003）、조현준（2007）、최문·윤승현（2011）、정인교（2006）、이창영（2009）などがある。これらの先行研究の主な論点は次の2点に集約できる。ひとつは、中韓両国は共に積極的な交渉姿勢を取り、順を追って難題を解決すべきだとする点である。もうひとつは、農産品貿易の問題は中韓FTA交渉の大きな壁になるが、FTA締結は両国の経済成長、貿易条件の改善にポジティブな影響をもたらすとする点である。

しかし、中韓FTAが中国の特定地域に及ぼす影響、また、

図1 国交樹立以降の中韓外交関係および中韓貿易の推移



(注) 香港、マカオを含まない。

(出所) 朱永浩（2013）「接近する中・韓—かつての敵対関係が変化」、『エコノミスト』91巻27号（通巻4292号）、毎日新聞社、24ページより一部加筆

その対応策に関する研究はほとんど行われていない。周知のように、中国は国土が広く人口も多い。そして、地域間の自然、経済、社会条件の格差も大きく、依然としてバランスの取れた経済発展ができていない。また、各地域の韓国への貿易依存度も異なる。そのため、中韓FTAの中国経済への効果・影響に関して、各地域の貿易条件に合った指向性のある調査研究が必要となる。そのなかでも、中韓FTA交渉の焦点となった農業、自動車、石油化学、繊維など、敏感な産業分野に対し具体的な分析を行うことが重要である。

本稿は、中韓両国におけるFTAの推進状況を考察したうえで、地理的に朝鮮半島から近い吉林省の対韓国貿易統計資料に基づき、中韓FTAが中国吉林省の産業発展にもたらす影響を分析する。ネガティブな効果を受けやすい産業、発展チャンスのある産業、競合関係が激化する産業を分類することによって、地方政府の対応策形成に向けた具体的な可能性と課題を示していきたい。

1. 中国と韓国のFTA及び中韓FTA交渉

1.1 中国のFTA

中国のFTA交渉は2000年代から始まったが、中国初のFTAとして2004年11月に「中国ASEAN物品貿易協定」が調印され、2005年7月に発効した。これまでの中国のFTA戦略の特徴を整理すると、次の4点に集約できる。

第一は、東アジア及び周辺国・地域とのFTAを優先し、中国がイニシアティブをとってアジア自由貿易圏という経済協力枠組みを構築していく点である。第二は、エネルギー・地下資源の産出国・地域とのFTAを重視する点である。第三は、中国の将来的な発展に重要な戦略的意義を持つ国・地域を優先する点である。第四は、中国の対外貿易成長及び産業の国際競争力の向上につながるようなFTAを重視する点である。

表1に示すように、2013年末現在、中国はすでにASEAN、チリ、パキスタン、ニュージーランド、シンガポール、ペルー、コスタリカ、アイスランド、スイスとFTAを締結し、香港とマカオの間では経済貿易緊密化協定(CEPA)、台湾とは兩岸経済協力枠組協議(ECFA)を結んでいる。このほか、FTAではないが、中国は2006年9月にアジア太平洋貿易協定(APTA)¹を締結し、ほかの加盟国(バングラデシュ、インド、韓国、ラオス、スリランカ)との間で、定められた優遇関税を適用することとなった。

そして、韓国、オーストラリア、アイスランド、ノルウェー、南部アフリカ関税同盟(SACU)、湾岸協力会議(GCC)、日中韓FTA、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)などの国・地域とも締結交渉が進められている。また、インド、コロンビアなどとは共同研究を行う段階にある。

1.2 韓国のFTA

韓国は、関税貿易一般協定(GATT)・WTO体制をはじめとする多角的貿易体系の中で最も恵まれている国の一つである。韓国の経済成長は主に対外貿易の急速な拡大により実現されたもので、韓国における対外貿易依存度は80%を超えている。

韓国の経済成長は、開放的なグローバル市場の拡大と自由な貿易環境の保全に緊密に関連しているため、2000年代以降、韓国政府は積極的にFTAの交渉を進めている。韓国のFTA戦略の特徴をまとめると、次の3点が指摘できる。

第一に、個別FTAの政府間交渉は時間がかかるため、有効的な交渉を進めるために、韓国は同時多発的な交渉という高効率な方式を採用している。第二に、FTA相手国を選択するにあたって、FTAの経済的・政治的効果を最大限活用するために、経済大国、資源産出国、地理的優位性を持つ国を中心にFTA交渉を展開している。第三に、

表1 中国のFTA締結・交渉・共同研究状況

発効済のFTA	交渉段階のFTA	共同研究段階のFTA
中国・ASEAN FTA (ACFTA)、中国・パキスタン FTA、中国・チリFTA、中国・ニュージーランドFTA、中国・シンガポールFTA、中国・ペルー FTA、中国・コスタリカFTA、中国・アイスランドFTA、中国・スイスFTA、中国大陸・香港CEPA、中国大陸・マカオCEPA、中国大陸・台湾ECFA	中国・GCC FTA、中国・オーストラリアFTA、中国・ノルウェー FTA、中韓FTA、日中韓FTA、東アジア地域包括的経済連携 (RCEP)	中国・インドFTA、中国・コロンビアFTA

(出所) China FTA Network (<http://fta.mofcom.gov.cn>) より作成

¹ 発展途上国間の貿易拡大を図るため、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)のイニシアティブによって、1975年に加盟国間の優遇関税適用を受ける「バンコク協定」が締結された。2005年11月、バンコク協定はアジア太平洋貿易協定(APTA)に改称され、加盟国はバングラデシュ、インド、韓国、ラオス、スリランカと中国となっている。

FTAの内容において、商品貿易分野における関税撤廃だけでなく、サービスや知的財産権、投資、貿易ルール、政府調達などの分野も重視し、ハイレベルのFTAを目指している。

このようなポジティブなFTA戦略を通じて、2003年以降、韓国は短期間にいくつも重要なFTAを締結し、アジアにおける「FTAハブ国」となった。2013年末現在、韓国はすでに、チリ、シンガポール、EFTA（アイルランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイス）、ASEAN、インド、EU、ペルー、アメリカ、トルコ、コロンビアとのFTAを締結した。そして、カナダ、GCC、メキシコ、オーストラリア、インドネシア、中国、ベトナムとは、FTAの交渉段階にある。また、日本、日中韓、南米南部共同市場（MERCOSUR²）、イスラエル、モンゴル、中米5カ国（パナマ、コスタリカ、エクアドル、ホンデュラス、グアテマラ）、マレーシアとは、FTAの共同研究の段階にある。

1.3 中韓FTA交渉の進捗状況

中韓FTAの構想は、2004年11月に行われたアジア太平洋経済協力会議（APEC）の非公式首脳会議で初めて提起された。首脳会議では、中国の胡錦濤国家主席（当時）と韓国のノ・ムヒョン大統領（当時）が、中韓FTAに関する共同研究を開始することに合意した。その後、中国国務院発展研究センター（DRC）と韓国対外経済政策研究院（KIEP）が中心となって、2005年3月から2006年11月にかけて民間共同研究を行った。2007年3月には、中韓両国の産官学共同研究が始まり、2010年5月に了承覚書が交換された。

2012年5月、中韓両国政府は正式に中韓FTAの交渉開始を宣言し、合意に至るための交渉原則を公表した。この原則とは、サービス、投資などの分野においてWTOよりも開放的で高いレベルのFTAを目指し、開城工業団地をFTA特別優遇関税の対象にすると同時に、韓国の農水産品、中国の石油化学など、両国の敏感な産業分野を守るこ

とが認められるという内容である。

中韓FTAの第1回交渉は2012年5月に北京で、第2回交渉は同年7月に韓国の済州島で開催され、2014年3月末時点で10回の交渉が行われた。ここで特筆したいのは、2013年9月に山東省濰坊市で行われた第7回交渉において、中韓FTAの第1段階の交渉が終了したことである。両国の交渉団はモノ貿易自由化のレベルや、協定範囲、各分野における交渉の原則・枠組み・内容要素などに合意した。その後の第8回から第10回までの交渉は正式交渉の段階となり、具体的な進捗状況は表3のとおりである。

2. 吉林省と韓国の貿易

中国と韓国が国交を樹立して以来、貿易総額は1992年の63.8億ドルから、2013年の2,289.2億ドルへと34.8倍にも拡大した³。中国は韓国にとって最大の貿易相手国であり、他方、韓国は中国の第3位の貿易相手国としてその存在感も高い。商品別で中韓貿易をみると、国交樹立当初の織物、農産品、人工繊維、鉱物原料、石油化学商品を中心とした産業間貿易から、近年では、電子部品、石油化学、産業用電子商品、運送用機械を中心とする産業内貿易に変わってきている。

地域別で中国の対韓国貿易を見てみると、主に中国沿海地域で中韓貿易が行われているが、本稿で取り上げる吉林省は、対韓国貿易額が1998年の2.48億ドルから2013年の7.69億ドルに大きく拡大したものの、中国東北地域の内陸部に位置し港湾を持たないため、貿易額の規模は相対的に少ない。具体的には、対韓国の輸出が1998年の2.48億ドルから2013年の3.92億ドルに増加し、平均増加率は8.5%であり、輸入は1998年の0.63億ドルから2013年の3.76億ドルに上り、平均増加率は13.6%であるが、貿易収支は1998年の1.84億ドルから2013年の0.16億ドルに大幅に減少している（表4）

さらに、この間の吉林省と韓国の貿易の傾向を見てみると、吉林省の対韓国輸出額は、ピーク時の2003年の7.58億

表2 韓国のFTA締結・交渉・共同研究状況

締結済のFTA	交渉段階のFTA	共同研究段階のFTA
韓国・ASEANFTA、韓国・チリFTA、韓国・シンガポールFTA、韓国・EFTA FTA、韓国・インドFTA、韓国・EU FTA、韓国・ペルーFTA、韓国・トルコFTA、韓国・コロンビアFTA	韓国・カナダFTA、韓国・GCCFTA、韓国・オーストラリアFTA、韓国・メキシコFTA、韓国・インドネシアFTA、中韓FTA、韓国・ベトナムFTA	日韓FTA、日中韓FTA、韓国・南米南部共同市場FTA、韓国・イスラエルFTA、韓国・モンゴルFTA、韓国・中米5カ国FTA、韓国・マレーシアFTA

（出所）韓国産業通商資源部のFTAサイト（<http://www.fta.go.kr>）より作成

² MERCOSUR（メルコスール）の加盟国は、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、パラグアイ、ボリビア、ベネズエラである。

³ 韓国貿易協会（KITA）のデータベースを参照した。

表3 中韓FTA交渉の進捗状況

	開催時期	開催場所	主な交渉内容
第1回	2012年 5月10日	中国北京	交渉細則を制定し、FTAの範囲（scope and coverage）や貿易統計、輸入関税などの情報を交換し、今後の交渉日程を協議した。
第2回	2012年 7月3～5日	韓国済州	貿易交渉委員会（Trade Negotiating Committee：TNC）に所属する実務交渉班を設立し、FTAの範囲や商品、サービス、投資などの分野における交渉方針を協議した。
第3回	2012年 8月22～ 24日	中国威海	両国はモノ貿易、サービス貿易、原産地などの交渉方式、交渉範囲・分野などの問題について意見を交換した。また、両国は政府調達や、知的財産権、電子商取引の競争政策などの分野において専門家会合を開催し、技術的意見を交換し、今後の交渉方向性について協議した。
第4回	2012年 10月30日～ 11月1日	韓国慶州	モノ貿易における開放の程度及び非関税障壁などを協議し、サービス・投資分野における制度・政策への相互理解を強化し、原産地交渉分野における具体的方針（modality）を討論し、知的財産権と電子商取引分野の交渉班を設立した。
第5回	2013年 4月26～ 28日	中国 ハルビン	両国とも指導部が交代したため、FTAの重要性を改めて確認し合い、モノ貿易、サービス貿易、投資及びその他の議題について意見を交換し、引き続きこれまでのペースで交渉を継続し、できるだけ早く交渉方式への合意、ウィンウィンの交渉結果の達成に向けて努力することで一致した。
第6回	2013年 7月2～ 4日	韓国釜山	モノ貿易の自由化レベルなどの問題において、両国の意見は基本的に揃った。また、両国はサービスや、原産地規則、税関手続き、貿易救済、知的財産権などの分野において委員会会合を開催し、モデル案に基本的に同意した。交渉範囲において、両国はモノ貿易や、サービス貿易、投資、原産地規則、税関手続き、貿易救済、知的財産権、競争政策、透明度、衛生・動植物検疫（SPS）、技術性貿易障壁、電子商取引、環境、経済協力などを交渉対象としてFTA交渉の範囲に盛り込むことに合意した。
第7回	2013年 9月3～ 5日	中国濰坊	両国は最終的に交渉範囲に関連する各分野のモデル文書に同意した。これにより、両国は中韓自由貿易協定の第1段階の交渉を終了し、正式交渉段階に入った。とくに、モノ貿易分野において、90%の品目は関税撤廃の対象となり、貿易総額の85%を占めている。
第8回	2013年 11月18～ 22日	韓国仁川	モノ貿易の初回入札リストを交換し、一般品目も敏感な品目もリストに含められた。また、両国は自ら提出した他分野における交渉文書草案について討論し、相手の立場をより深く理解し合った。
第9回	2014年 1月6～ 10日	中国西安	両国は正式にモノ貿易分野における関税下げ方式と協定文書について交渉し、また、原産地規則や、貿易救済、税関手続き・貿易の簡素化、技術貿易障壁（TBT）、衛生・動植物検疫（SPS）、競争政策、知的財産権、電子商取引などの分野における協定文書を討論した。
第10回	2014年 3月17～ 21日	韓国一山	モノ貿易分野において、両国は自ら提出した関税下げ方式と関税下げ基準に基づいて品目別に交渉した。また、お互いに関心を持っている分野の開放を相手に求めた。しかし、まだ双方の意見の隔たりが大きく、実質的な進展には至らなかった。

（出所）China FTA Network（<http://fta.mofcom.gov.cn>）、及び韓国産業通商資源部のFTAサイト（<http://www.fta.go.kr>）より作成

表4 吉林省と韓国の貿易額（1998～2013年）

年	輸出（吉林省→韓国）		輸入（韓国→吉林省）		吉林省の対韓国貿易収支	
	金額（万ドル）	増加率（%）	金額（万ドル）	増加率（%）	金額（万ドル）	増加率（%）
1998年	24,783	-	6,337	-	18,446	-
1999年	22,448	-9.4	8,411	32.7	14,037	-23.9
2000年	38,765	72.7	7,928	-5.8	30,837	119.7
2001年	44,134	13.8	10,513	32.6	33,620	9.0
2002年	61,073	38.4	9,817	-6.6	51,257	52.5
2003年	75,839	24.2	13,647	39.0	62,193	21.3
2004年	37,436	-50.6	15,337	12.4	22,099	-64.5
2005年	63,416	69.4	16,899	10.2	46,518	110.5
2006年	51,778	-18.4	16,803	-0.6	34,975	-24.8
2007年	70,887	36.9	20,743	23.4	50,144	43.4
2008年	59,816	-15.6	18,879	-9.0	40,938	-18.4
2009年	42,735	-28.6	18,707	-0.9	24,027	-41.3
2010年	48,488	13.5	22,262	19.0	26,227	9.2
2011年	52,410	8.1	26,632	19.6	25,778	-1.7
2012年	42,051	-19.8	31,042	16.6	11,009	-57.3
2013年	39,231	-6.7	37,634	21.2	1,597	-85.5

（出所）中国税関統計より作成

ドルから減少傾向にある。その一方で、吉林省の対韓国輸入額が全体的に穏やかな成長を見せており、2013年の3.76億ドルに拡大した。そして、吉林省と韓国の貿易収支額は、2013年に0.16億ドルと史上最低値となった。

吉林省の対韓国貿易額が増加するにつれて、その商品構成も大きく変化した。世界税関機構(WCO)が定めた「HSコード」2桁品目を用いて商品別に見てみると、初期の穀物、化学繊維長繊維、シェラック・樹脂、木材、木製品(以上は輸出品)、機械・ボイラー、製粉商品、鋼鉄、化学繊維短繊維(以上は輸入品)から、2013年末現在の電機・電気設備、種実・果実、魚・軟体動物、食用野菜、穀物(以上は輸出品)、鋼鉄、機械・ボイラー、電機・電気設備、プラスチック及びその製品(以上は輸入品)となった。

また、1998年から2013年までの貿易品目の変化から、輸

出入品目の構成が大きく変化し、輸出入商品の付加価値が向上したことが読み取れる。さらに注目すべき点は、吉林省の対韓国貿易が主として産業間貿易のため、吉林省と韓国の産業は補完性が高く、将来性が期待されることである(表5、表6)

3. 吉林省と韓国の貿易特化指数分析

当事国がFTAを締結した場合、輸入関税の撤廃(または大幅な引下げ)、貿易障壁の解消(または大幅な緩和)が実施されることになる。その結果、調印国間の貿易はよりスムーズになり、資源はより有効に活用され、経済利益はより多く生み出される。さらに、有効な資源活用の相乗効果により、比較優位性を持つ産業が発展でき、生産拡大と輸出増という効果も期待できる。その一方で、比較的劣

表5 吉林省の対韓国主要輸出品における変化

順番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1998年	品目	穀物	化学繊維長繊維	シェラック・樹脂等	木材・木製品	鋼鉄	電機・電気設備	ニットウェア	食用果物及びナッツ	有機化学商品	無機化学商品
	金額(百万ドル)	130.8	22.7	13.0	9.7	8.7	7.8	7.6	5.8	5.6	5.5
1999年	品目	穀物	化学繊維長繊維	シェラック・樹脂等	木材・木製品	電機・電気設備	食用野菜・根	有機化学商品	ニットウェア	含油種実・果実	鋼鉄
	金額(百万ドル)	74.1	23.7	16.9	15.9	13.4	9.1	8.4	8.1	7.8	7.5
2000年	品目	穀物	化学繊維長繊維	シェラック・樹脂等	木材・木製品	鋼鉄	電機・電気設備及びその部品	非ニットウェア	生木及びその他の生植物	コーヒー・お茶・調味香辛料	ニットウェア
	金額(百万ドル)	218.5	19.8	17.8	17.6	14.9	13.4	10.5	9.5	8.8	8.1
2001年	品目	穀物	木材・木製品	化学繊維短繊維	電機・電気設備及びその部品	アルミニウム及びその製品	化学繊維長繊維	含油種実・果実	ニットウェア	鋼鉄	非ニットウェア
	金額(百万ドル)	266.7	23.1	15.2	15.2	12.8	12.7	9.9	9.8	9.5	9.0
2002年	品目	穀物	木材・木製品	アルミニウム及びその製品	電機・電気設備及びその部品	化学繊維短繊維	化学繊維長繊維	含油種実・果実	ニットウェア	食用野菜・根・塊茎	非ニットウェア
	金額(百万ドル)	419.0	27.7	22.0	17.4	14.9	11.8	11.8	11.8	10.3	9.6
2003年	品目	穀物	木材・木製品	電機・電気設備及びその部品	アルミニウム及びその製品	鋼鉄	含油種実・果実	ニットウェア	化学繊維短繊維	魚・介甲類動物	食用野菜・根
	金額(百万ドル)	537.6	27.8	26.7	19.0	17.8	14.5	14.2	13.6	11.7	11.5
2004年	品目	穀物	電機・電気設備及びその部品	鋼鉄	有機化学商品	木材・木製品	ニットウェア	食用野菜・根	化学繊維短繊維	含油種実・果実	カメラ・精密機器
	金額(百万ドル)	129.3	29.9	29.0	26.9	19.1	14.4	13.5	13.4	11.1	10.7
2005年	品目	穀物	電機・電気設備及びその部品	有機化学商品	鋼鉄	食用野菜・根・塊茎	木材・木製品	含油種実・果実	化学繊維短繊維	肉・魚・介甲類動物	ニットウェア
	金額(百万ドル)	369.3	39.1	22.6	21.2	19.1	19.0	14.4	13.4	13.1	11.7
2006年	品目	穀物	鋼鉄	電機・電気設備及びその部品	魚・介甲類動物、軟体動物	木材・木製品	食用野菜・根・塊茎	化学繊維短繊維	含油種実・果実	ニットウェア	化学繊維長繊維
	金額(百万ドル)	147.5	68.5	55.3	26.5	22.8	21.1	17.6	15.4	13.2	13.0
2007年	品目	穀物	鋼鉄	電機・電気設備及びその部品	魚・介甲類動物	木材・木製品	食用野菜・根	含油種実・果実	化学繊維短繊維	食品の残渣	ボイラー・機械
	金額(百万ドル)	283.2	86.6	66.6	35.4	23.8	23.6	19.3	18.4	14.5	13.2
2008年	品目	含油種実・果実	鋼鉄	電機・電気設備及びその部品	食品工業の残渣	魚・介甲類動物	木材・木製品	食用野菜・根	ボイラー・機械	穀物	飲料・お酒・お酢
	金額(百万ドル)	103.2	84.0	62.9	52.5	34.4	26.0	22.9	19.5	17.1	17.1
2009年	品目	含油種実・果実	穀物	電機・電気設備及びその部品	ボイラー・機械	魚・介甲類動物	食用野菜・根・塊茎	食品の残渣	木材・木製品	飲料・お酒・お酢	鋼鉄
	金額(百万ドル)	74.5	38.1	30.7	27.8	27.2	25.0	24.5	22.5	20.4	15.4
2010年	品目	魚・介甲類動物	食用野菜・根・塊茎	電機・電気設備及びその部品	飲料・お酒・お酢	含油種実・果実	穀物	食品の残渣	ボイラー・機械	カメラ・精密機器	化学繊維短繊維
	金額(百万ドル)	58.0	47.5	45.2	39.2	37.2	27.9	22.3	19.2	18.0	17.3
2011年	品目	電機・電気設備	魚・軟体動物	種実・果実	穀物	食用野菜・根	鋼鉄	食品の残渣	無機化学商品	非ニットウェア	有機化学商品
	金額(百万ドル)	73.0	56.2	45.5	40.6	38.9	34.6	33.7	23.5	19.3	18.7
2012年	品目	電機・電気設備	種実・果実	魚・軟体動物	食用野菜・根	食品の残渣・飼料	ニットウェア	木材・木製品	化学繊維短繊維	非ニットウェア	カメラ・精密機器
	金額(百万ドル)	68.3	55.2	47.0	39.1	35.8	18.8	13.6	13.3	10.5	10.4
2013年	品目	電機・電気設備及びその部品	種実・果実	魚・介甲類動物	食品の残渣	食用野菜・根	穀物	ニットウェア	非ニットウェア	化学繊維短繊維	木材・木製品
	金額(百万ドル)	58.4	42.5	39.8	37.5	35.9	21.9	16.4	16.0	12.1	10.9

(注) 品目はHS 2桁

(出所) 中国税関統計より作成

表6 吉林省の対韓国主要輸入品における変化

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1998年	品目	ボイラー・機械	製粉商品	有機化学商品	化学繊維短繊維	鋼鉄	綿花	電機・電気設備	化学繊維長繊維	光学精密機器	自動車及びその部品
	金額(百万ドル)	12.1	11.3	5.4	5.3	5.0	3.8	3.5	2.3	1.9	1.8
1999年	品目	ボイラー・機械	電機・電気設備	製粉商品	鋼鉄	化学繊維短繊維	有機化学商品	綿花	銅及びその製品	化学繊維長繊維	鉱物燃料・油
	金額(百万ドル)	17.7	10.0	8.7	7.5	6.8	6.6	4.6	3.4	2.2	1.6
2000年	品目	卑金属雑製品	プラスチック及びその製品	化学繊維短繊維	鋼鉄	銅及びその製品	有機化学商品	化学繊維長繊維	船舶・浮動構造単位	無機化学商品	鋼鉄製品
	金額(百万ドル)	15.2	13.6	8.6	4.5	3.9	3.3	2.6	1.9	1.8	1.2
2001年	品目	卑金属雑製品	ボイラー・機械	その他の化学商品	化学繊維長繊維	天然または養殖真珠・宝石	無機化学商品	鋼鉄製品	鉱物砂・スラグ及び鉱物フライアッシュ	船舶・浮動構造単位	写真撮影及び映画撮影用品
	金額(百万ドル)	28.6	14.1	10.5	6.8	6.0	5.9	5.3	4.9	4.4	3.3
2002年	品目	卑金属雑製品	ボイラー・機械	その他の化学商品	写真撮影及び映画撮影用品	天然または養殖真珠・宝石	ニッケル及びその製品	鋼鉄製品	無機化学商品	船舶・浮動構造単位	その他の植物紡織繊維
	金額(百万ドル)	18.8	15.9	10.0	7.4	7.3	7.2	4.9	4.3	3.3	1.6
2003年	品目	電機・電気設備及びその部品	ボイラー・機械	鋼鉄	その他の化学商品	自動車及びその部品	プラスチック及びその製品	化学繊維短繊維	銅及びその製品	有機化学商品	鉱物燃料・油
	金額(百万ドル)	28.5	14.8	14.0	12.8	10.5	9.8	6.9	6.5	6.3	3.8
2004年	品目	電機・電気設備及びその部品	有機化学商品	その他の化学商品	ボイラー・機械	鋼鉄	プラスチック及びその製品	銅及びその製品	化学繊維短繊維	カメラ・精密機器	化学繊維長繊維
	金額(百万ドル)	33.8	20.4	14.9	14.1	13.0	12.5	8.0	6.8	5.8	4.1
2005年	品目	鉱物燃料・油	電機・電気設備及びその部品	ボイラー・機械	プラスチック及びその製品	鋼鉄	その他の化学商品	銅及びその製品	有機化学商品	化学繊維短繊維	カメラ・精密機器
	金額(百万ドル)	24.8	22.9	17.9	16.7	16.5	11.2	10.7	10.1	6.6	5.8
2006年	品目	電機・電気設備及びその部品	鋼鉄	プラスチック及びその製品	その他の化学商品	ボイラー・機械	銅及びその製品	有機化学商品	化学繊維短繊維	カメラ・精密機器	化学繊維長繊維
	金額(百万ドル)	30.7	20.4	18.4	17.9	15.3	13.2	6.2	6.2	5.8	4.5
2007年	品目	ボイラー・機械	電機・電気設備及びその部品	鋼鉄	プラスチック及びその製品	その他の化学商品	有機化学商品	銅及びその製品	化学繊維長繊維	化学繊維短繊維	カメラ・精密機器
	金額(百万ドル)	40.0	30.0	27.7	21.2	17.2	10.5	8.6	5.3	5.0	4.3
2008年	品目	鋼鉄	電機・電気設備及びその部品	プラスチック及びその製品	ボイラー・機械	カメラ・精密機器	その他の化学商品	ニットウェア・鉤針編み物	鋼鉄製品	化学繊維短繊維	アルミニウム及びその製品
	金額(百万ドル)	45.0	26.7	23.2	18.3	15.2	7.0	6.5	5.4	3.6	3.2
2009年	品目	鋼鉄	プラスチック及びその製品	電機・電気設備及びその部品	カメラ・精密機器	ボイラー・機械	ニットウェア・鉤針編み物	その他の化学商品	卑金属工具・器具	鋼鉄製品	化学繊維短繊維
	金額(百万ドル)	43.8	21.9	21.8	19.1	19.1	6.6	6.1	4.0	3.9	3.6
2010年	品目	鋼鉄	プラスチック及びその製品	電機・電気設備及びその部品	カメラ・精密機器	ボイラー・機械	化学繊維短繊維	紙及び段ボール・パルプ	ゴム及びその製品	その他の化学商品	鋼鉄製品
	金額(百万ドル)	57.3	31.9	31.9	26.1	18.7	5.7	5.3	5.1	5.0	3.1
2011年	品目	鋼鉄	プラスチック及びその製品	電機・電気設備	プラスチック及びその製品	光学医療機器	ニットウェア・鉤針編み物	その他の化学商品	自動車及びその部品	ゴム及びその製品	化学繊維短繊維
	金額(百万ドル)	75.3	46.3	33.5	20.0	18.5	6.7	6.2	6.0	5.1	4.3
2012年	品目	鋼鉄	ボイラー・機械	プラスチック及びその製品	電機・電気設備	光学医療機器	有機化学商品	宇宙航空機	その他の化学商品	ゴム及びその製品	鋼鉄製品
	金額(百万ドル)	65.4	54.6	50.6	45.2	16.6	12.2	7.6	6.8	4.3	3.8
2013年	品目	鋼鉄	ボイラー・機械	電機・電気設備及びその部品	プラスチック及びその製品	その他の化学商品	カメラ・精密機器	自動車及びその部品	有機化学商品	鋼鉄製品	鉱物砂・スラグ及び鉱物フライアッシュ
	金額(百万ドル)	106.2	65.7	53.0	51.7	17.3	16.4	7.3	6.8	5.6	4.4

(注) 品目はHS 2桁

(出所) 中国税関統計より作成

勢の産業はFTAのネガティブな影響を受け、生産と販売が大幅に落ち込み、最終的に市場から撤退せざるを得なくなる。

以下では、吉林省における対韓国の産業競争力を品目別に比較するため、貿易特化指数(Trade Specialization Index: TSI)を用いて具体的に分析を行う。定式化した貿易特化指数は次のように示される。

$$TSI = (X_i - M_i) / (X_i + M_i)$$

TSIは輸出と輸入の差を輸出と輸入の合計で除した値であり、マイナス1から1に分布する。定式の中のX_iはi国の商品の輸出総額であり、M_iはi国の商品の輸入総額である。TSIの値が零より大きければ韓国の輸出が輸入を上回

り、-1に近ければ輸入が輸出に比べて多いことを、ゼロに近ければ輸出と輸入が同じ大きさであることを意味する。一般的に、TSIの値が0.3~1であれば、輸出においてその産業品目が相手国・地域に対し競争力を持つことを意味する。TSIの値が-0.3~0.3であれば、輸出においてその産業品目が相手国・地域と水平競争関係にあると見なされる。そして、TSIの値が-0.3~-1であれば、輸出においてその産業品目が相手国・地域に対し劣勢であることを意味する。

本稿では、1998~2012年の吉林省と韓国の貿易統計資料(「HSコード」2桁品目)を用いて、吉林省の貿易特化指数を算出し、対韓国の貿易競争関係を分析してみた。結果は表7と表8のとおりである。その要点は、次の3点である。

第一に、吉林省は輸出において韓国より優位性のある産業分野を持っている。具体的には、農業、畜産業、鉱業などの一次産業、食品加工、木材・家具などの加工業、労働集約型の服装・靴・帽子産業が挙げられる。第二に、吉林

省の対韓国輸入の優位産業分野は、韓国の対吉林省輸出の優位産業分野でもある。具体的には、資本・技術集約型の鋼鉄、プラスチック、ゴム、卑金属が挙げられる。第三に、吉林省と韓国の間で競争が激しい産業分野、すなわち水平

表7 吉林省の対韓国貿易特化指数 (TSI) の分析結果

HS2桁	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
03	1.00	0.98	0.94	0.81	0.99	1.00	0.84	0.74	0.73	0.86	0.92	0.86	0.97	0.90	0.91	0.87
04	-1.00	-1.00	0.10	0.98	0.99	0.97	1.00	0.00	-1.00	-0.20	0.99	1.00	0.99	0.72	1.00	1.00
05	0.18	0.09	0.89	0.57	1.00	0.99	0.97	0.96	0.90	0.93	0.83	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
06	0.89	1.00	1.00	0.98	0.99	1.00	0.88	0.87	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00	0.98	1.00
07	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
08	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
09	0.00	0.91	0.98	0.99	0.99	0.94	0.99	0.96	0.35	-1.00	-0.59	0.98	0.00	-1.00	1.00	0.85
10	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.98	1.00	1.00
11	0.00	1.00	0.97	1.00	1.00	0.98	0.99	0.97	0.91	0.94	1.00	0.98	0.88	1.00	1.00	0.83
12	1.00	1.00	1.00	0.99	0.98	1.00	1.00	1.00	0.98	0.99	1.00	0.97	0.92	0.97	0.98	0.99
13	0.97	0.92	0.86	0.80	0.87	0.84	0.86	0.85	0.90	0.71	0.78	0.65	0.57	0.43	0.33	0.05
14	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00
15	0.00	1.00	0.00	0.95	0.92	0.50	1.00	0.99	0.99	0.21	0.96	0.97	1.00	1.00	1.00	0.99
16	0.71	1.00	0.98	0.92	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.98	0.98	0.99	1.00	0.85	0.92
17	-1.00	-1.00	-0.12	-0.82	-0.40	0.09	0.89	0.89	0.70	0.67	0.74	0.56	-0.09	0.02	-0.83	-0.77
19	-0.87	-0.94	-0.55	-0.76	-0.21	0.37	0.39	0.58	0.57	0.49	0.33	0.39	0.36	0.86	0.85	0.61
20	0.63	-1.00	0.35	0.74	0.27	0.64	0.48	0.90	0.97	1.00	0.90	0.86	0.92	0.98	0.97	0.93
21	0.61	0.86	0.91	0.88	0.94	0.89	0.85	0.94	0.88	0.79	0.73	0.68	0.82	0.89	0.78	0.62
22	0.63	0.83	0.30	0.95	0.94	0.96	0.97	0.68	0.93	0.82	0.87	0.89	0.96	0.27	0.31	0.83
23	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
25	1.00	1.00	0.99	0.95	0.93	0.97	0.99	0.98	0.90	0.77	0.46	0.67	0.87	0.81	0.99	0.77
26	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	-0.49	-1.00	0.00	1.00	-1.00	-1.00	1.00	-0.94	-0.99	-1.00
27	0.99	-0.75	0.34	-0.82	-0.90	-0.93	-0.83	-0.96	0.99	0.95	0.99	1.00	-0.28	-1.00	-1.00	-1.00
28	0.96	0.84	0.46	0.70	0.83	0.78	0.93	0.99	0.97	0.91	0.58	0.90	0.97	1.00	0.91	0.77
29	0.02	0.13	0.29	-0.08	-0.09	-0.20	0.14	0.38	0.02	-0.18	0.89	0.60	0.82	0.88	-0.24	-0.01
30	1.00	1.00	1.00	1.00	0.89	0.98	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	0.38	0.66	1.00
31	1.00	1.00	1.00	1.00	0.89	1.00	0.73	1.00	0.64	0.90	0.81	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00
32	-0.11	-0.79	-0.65	-0.88	-0.49	-0.59	-0.05	0.20	-0.04	0.08	-0.03	-0.31	-0.31	-0.03	0.13	0.13
33	-0.24	-1.00	-1.00	-0.83	-1.00	-0.96	-0.92	-0.78	-0.83	-1.00	-1.00	-0.99	-0.94	-1.00	-1.00	-1.00
34	-0.92	-1.00	-1.00	-1.00	-0.76	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-0.97	-0.96	-0.88	-1.00	-0.98	-0.89	-0.89
35	-1.00	0.83	0.89	0.92	0.86	0.70	0.83	0.43	0.97	0.94	0.89	0.59	0.89	0.85	0.68	0.85
38	0.75	0.49	-0.09	-0.22	-0.77	-0.91	-0.89	-0.81	-0.78	-0.64	-0.41	-0.38	-0.21	-0.29	-0.28	-0.66
39	-0.98	-0.97	-0.93	-0.86	-0.91	-0.89	-0.83	-0.77	-0.86	-0.86	-0.89	-0.94	-0.95	-0.94	-0.94	-0.92
40	-1.00	-0.94	-0.15	0.10	-0.47	-0.12	0.50	0.14	-0.03	0.21	0.56	-0.40	-0.37	-0.87	-1.00	-0.98
41	-0.27	-0.95	-0.78	-1.00	-1.00	-1.00	-0.94	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00
42	-0.72	0.92	0.97	0.88	0.97	0.87	0.33	0.96	0.96	0.61	0.63	0.86	0.96	-1.00	0.96	0.43
43	-1.00	0.50	-0.64	-1.00	0.56	-1.00	1.00	0.99	0.96	-1.00	-0.67	-1.00	-1.00	-1.00	0.86	-0.78
44	0.90	0.91	0.97	0.96	0.99	0.99	0.97	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	0.91
46	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.56	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.96	1.00	1.00
48	-1.00	-0.94	-0.85	-0.43	-0.17	0.13	0.12	-0.46	-0.76	-0.32	-1.00	-0.02	-0.91	-0.71	-0.60	-0.96
49	-1.00	-0.93	-1.00	-0.60	-0.45	-0.97	-0.88	-0.02	-1.00	0.39	0.99	0.70	-0.77	-1.00	0.33	-1.00
51	-0.79	-0.24	-0.77	-1.00	-1.00	1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	0.98	-1.00	-1.00	0.00	-1.00	-1.00
52	-0.04	-0.28	0.21	0.05	-0.52	-0.49	-0.63	0.12	0.10	0.05	0.29	0.79	0.33	0.24	0.36	0.79
53	0.73	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.78	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.95	1.00
54	0.82	0.83	0.77	0.76	0.76	0.52	0.27	0.40	0.49	0.34	0.67	0.80	0.88	0.93	0.91	0.89
55	0.42	0.43	0.35	0.38	0.35	0.33	0.33	0.34	0.48	0.58	0.58	0.61	0.51	0.46	0.56	0.63
56	-0.80	-0.77	-0.77	-0.90	-0.96	-0.76	-0.94	-0.87	-0.90	-0.68	-0.49	-0.51	-0.39	-0.65	-0.35	-0.27
58	-0.92	-0.49	-0.27	-0.42	-0.32	-0.30	-0.45	-0.10	-0.40	-0.94	-0.97	-1.00	-0.65	-1.00	-1.00	-0.99
59	-0.63	-0.95	-1.00	-1.00	-0.93	-0.58	-0.94	-0.09	-0.98	-1.00	-1.00	-0.99	-1.00	-1.00	-0.98	-1.00
60	-1.00	-1.00	-1.00	-0.94	-0.40	-1.00	-0.99	-0.94	-0.80	-0.78	-0.96	-1.00	-0.99	-1.00	-0.94	-1.00
61	0.96	1.00	0.93	0.97	0.88	0.97	0.98	0.99	0.99	0.99	0.99	0.95	0.92	0.99	0.97	0.93

62	0.80	0.92	0.94	0.92	0.95	0.97	0.98	0.98	0.97	0.95	0.92	0.98	0.99	0.99	0.98	0.98
63	0.60	0.95	0.97	0.82	0.54	0.78	0.49	0.86	0.93	0.95	0.93	0.87	0.96	0.91	0.75	0.08
64	0.26	0.48	0.83	0.62	0.74	0.84	0.94	0.92	0.99	0.99	0.94	0.94	0.94	0.93	0.81	-0.01
68	-0.16	0.22	0.40	0.44	0.43	0.57	0.40	-0.03	-0.17	0.15	-0.32	0.07	-0.16	-0.18	0.84	-0.15
69	0.67	0.64	0.92	-0.83	-0.50	-0.97	-0.84	0.61	-0.56	0.12	0.12	-0.69	0.00	-1.00	0.12	-0.99
70	-0.97	-0.68	-0.52	-0.06	0.01	-0.09	0.35	0.14	0.73	0.31	0.66	0.91	0.89	0.81	0.15	0.60
71	0.64	0.46	0.98	0.93	0.86	0.81	1.00	1.00	0.52	0.98	-1.00	0.00	0.20	0.50	0.74	1.00
72	0.28	0.00	0.54	0.23	-0.25	0.11	0.38	0.13	0.54	0.51	0.30	-0.48	-0.54	-0.37	0.00	-0.93
73	-0.26	-0.48	-0.54	-0.44	0.04	-0.22	-0.38	-0.48	-0.38	-0.01	-0.71	-0.44	-0.31	-0.47	-0.74	-0.67
74	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-0.99	-0.97	-0.99	-1.00	-1.00	-0.97	0.55	-0.88	-1.00	-0.28	-1.00
76	0.96	0.96	0.91	0.93	0.97	0.93	0.33	0.34	-0.74	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-0.78	1.00	-0.99
81	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00	0.65	1.00	1.00	0.78	1.00	1.00	0.94	1.00	1.00	1.00	1.00
82	0.77	0.89	0.73	-0.97	-0.74	0.32	-0.48	-0.60	0.07	-0.28	0.11	-0.77	-0.23	0.14	-0.64	-0.89
83	-1.00	-0.93	-0.98	0.51	0.51	-0.83	-0.79	-0.63	-0.48	-0.55	-0.35	0.57	0.46	0.00	-0.93	-0.96
84	-0.99	-0.97	-0.98	-0.31	-0.04	-0.87	-0.94	-0.91	-0.56	-0.50	0.03	0.19	0.01	-0.47	-0.83	-0.91
85	0.38	0.15	0.24	-1.00	-0.99	-0.03	-0.06	0.26	0.29	0.38	0.40	0.17	0.17	0.37	0.20	0.05
86	1.00	-0.95	0.60	0.00	-1.00	-1.00	-1.00	-1.00	-0.89	-0.54	0.44	0.81	-0.81	-0.97	-0.88	-1.00
87	-0.98	-0.98	-0.89	-0.90	-1.00	-0.96	-0.54	-0.45	-0.24	0.32	0.63	-0.19	0.58	0.26	-0.03	0.01
90	-0.84	-0.16	-0.06	-0.91	-0.88	0.57	0.30	0.27	0.00	-0.36	-0.15	-0.29	-0.18	-0.18	-0.23	-0.44
94	0.70	0.77	0.75	0.45	0.73	0.64	0.91	0.88	0.89	0.83	0.88	0.52	0.52	0.57	0.75	0.62
95	-0.85	0.87	0.62	0.00	-0.11	0.45	0.46	0.41	0.70	0.77	0.92	0.98	0.96	0.98	0.99	0.92
96	-0.85	-0.95	-0.44	-0.93	-0.99	-0.14	-0.36	-0.27	0.23	0.00	-0.56	-0.04	0.33	-0.40	-0.40	-0.26

(出所) 吉林省及び韓国の貿易統計資料に基づいて作成

表8 吉林省と韓国の産業競争関係

産業	吉林省が優位性を持つ産業分野(品目)	韓国が優位性を持つ産業分野(品目)	水平競争の産業分野(品目)
農業	06、07、08、10、11、12、13、14		09
畜産業	04、05		
水産業	03		
食品加工業	15、16、17、19、20、21、22、23	17	
鉱業	25		
化学	28、29、30、31、35	26、27、33、34、38	27、31、32
プラスチック・ゴム産業		39、40	
革製品産業	42	41、43	
木材家具産業	44、46		
紙・印刷業		48、49	
紡織業	52、53、54、55	51、58、59、60、	56
服装産業	61、62、63		
靴・帽子産業	64、65、		
非鉄金属産業	70、71	69	68
鋼鉄業		72、73、	
卑金属製品産業	81	74、76、80	82、83
機械・電子商品業		84	85
自動車・鉄道車両産業		86	87
精密機器産業		90	91
その他製品産業	94、95		96

(出所) 表7の分析結果に基づいて作成

競争型産業分野は、非鉄金属、工作機械、電子、自動車、鉄道車両、精密機器である。

4. 中韓FTAが吉林省の産業発展に与える影響

中韓FTAが締結・発効した場合、大部分の産業分野においては、関税障壁が直ちに解消するとともに、一部の敏感な産業分野においても関税が次第に下げられていくものと思われる。2013年9月3～5日、山東省濰坊市で開催さ

れた中韓FTA第7回目の交渉では、中韓両国は最終的に交渉範囲に関連する各分野のモデル文書に同意した。これにより、両国は中韓自由貿易協定の第1段階の交渉を終了し、正式交渉の段階に入った。とくに、モノ貿易分野において、品目分類方式（一般、敏感、超敏感）、品目数を基準とした自由化率（90%）などの「基本方針」について合意した。

この基本方針により、韓国の輸出優位性を持つ多くの産

表9 中国と韓国の主要産業の平均輸入関税率

産業	農畜水産品及びその加工業	鉱業	石油化学	繊維・服装	非鉄金属	鋼鉄	機械	電子商品	自動車	その他
中国	14.5	2.9	5.7	11.7	6.3	5.2	7.7	7.7	16.8	10.3
韓国	41.5	2.8	5.9	9.9	6.6	0.9	6.3	6.2	8.1	5.9

(出所) 최문・윤승현 (2011) 「한·중 FTA 협상에서의 주요 산업의 품목별 원산지기준 제정에 관한 연구」, 『中國과 中國學』 제14호, 「韓国関稅庁 輸入関稅表」及び「中華人民共和國関稅輸出入稅則」より作成

業分野は、関税水準の引下げによって競争優位性を得ることができる。吉林省の場合、韓国とは地理的に近いため、韓国から吉林省への輸出増が考えられる。同様に、関税障壁の解消に伴い、吉林省が輸出優位性を持つ産業分野での韓国への輸出も増えるだろう。なお、表9は中国と韓国の主要産業の平均輸入関税率を示している。

表8の分析結果及び表9の平均関税率をもとに、中韓FTAが吉林省の産業発展に与える影響について、以下の4点にまとめることができる。

第一に、吉林省と韓国の輸入関税水準格差が比較的大きい産業は、農畜水産品及びその加工業、繊維・服装、鉄鋼、自動車である。吉林省対韓国の貿易特化指数分析(表7)から、農業、畜産業、食品加工、繊維・服装分野では、吉林省が韓国より競争優位性を持つことが読み取れる。したがって、中韓FTAが締結・発効した場合、これらの産業分野の対韓国輸出が増加し、新たな産業発展チャンスがもたされることになる。ここ数年、吉林省の対韓国輸出において、農畜水産品及びその加工業、繊維・服装は輸出全体の50%以上を占めている。主な品目として、種実・果実、魚・軟体動物、食用野菜・根、食品残渣・飼料、ニットウェアが挙げられる(表5参照)。中韓FTAが発効すれば、これらの品目の輸出量はさらに増え、輸出全体に占める比率も高水準を維持できると思われる。

第二に、自動車産業は吉林省の基幹産業であり、韓国との間で競争が激しい産業分野である。2013年、吉林省と韓国の自動車産業の貿易額は貿易全体の2.3%しか占めていないが、その主因は16.8%という中国側の高い関税にある。とくに、小型バスと乗用車の輸入関税は25%に達し、輸出入貿易拡大の大きな妨げになっている。今後、中韓FTAが締結・発効した場合、自動車産業の関税障壁が解消されるにつれ、韓国から中国への自動車輸出が増え、吉林省の自動車産業にも大きな影響を与えることになる。

第三に、鋼鉄は中韓両国の輸入関税格差が大きい産業分野であり、中国の輸入関税が韓国より4.3%高い(表9)。表8の分析結果によれば、鋼鉄産業分野において、韓国は吉林省より絶対的競争優位性を有している。2012年にお

ける韓国の対吉林省輸出額の中で最も多いのは鋼鉄業であり、1.06億ドルにも達している(表6)。今後、中韓FTAが締結・発効した場合、韓国の鋼鉄製品の対中輸出は一層拡大する可能性が高い。

第四に、資本・技術集約型の機械・電子産業については、吉林省と韓国は水平競争関係または吉林省の競争劣勢にある。現在、中国の輸入関税は韓国より1.4%高いため、中韓FTAが締結・発効すれば、比較優位を持つ韓国メーカーにとって発展のチャンスが大きい。2013年における韓国の対吉林省輸出において、機械・電子産業は主導的地位にあった。輸出品目の中で、ボイラー・機械の輸出額は0.66億ドル、電機・電気設備の輸出額は0.53億ドル、光学・医療機器の輸出額は0.16億ドルであった(表6)。中韓FTAが締結・発効した場合、機械・電子産業の貿易規模は引き続き拡大し、競争もより激しくなるが、それと同時に産業内貿易の拡大に伴い協力関係がより強化されると推測できる。

むすびにかえて—吉林省の産業発展に向けた可能性と課題

中韓FTA交渉は2012年5月に始まり、これまでに10回行われた。中韓FTAが締結・発効すれば、朝鮮半島に近い吉林省にとって、拡大可能な海外市場が提供され、さらに韓国との貿易を通して産業高度化を図る新たな機会が得られる。これまでは、中韓FTAが吉林省の産業発展に及ぼす影響について分析を行ってきたが、以下では、それに基づく吉林省の産業発展の可能性と課題を示しながら、結びに代えたい。

第一に、吉林省と韓国の間では、産業間相互補完関係が存在している。たとえば、吉林省の競争優位の産業分野として農畜水産品及びその加工業、木材・家具などが、韓国の競争優位の産業分野として鋼鉄業、プラスチック・ゴム業などが挙げられる。吉林省は広大な土地と豊富な資源を有し、中国朝鮮族も多く、一次産業及びその加工・労働集約型の産業分野において独自の優位性を持っている。一方、資本・技術集約型産業においては、韓国が競争優位性を有している。吉林省は中国の主な自動車生産地であり、上質な鋼材・鋼板の需要量が比較的多い。そのため、韓国の鋼

鉄業にとって重要な輸出先になる可能性が高い。これらの産業の相互補完関係は、中韓FTAの効果として双方の貿易規模の拡大をもたらすことが期待できる。

第二に、自動車と石油化学は、吉林省の経済発展にとって欠かせない二大基幹産業である。吉林省にとって、長春市を本拠地とする中国第一汽車集団公司 (FAW) のグローバルな経営展開を支持し、FAWの生産能力の拡大と国産率の向上に向けた取り組みを促すことが重要である。そして、石油化学産業においては、中国石油天然気集団公司 (CNPC) 傘下の中国石油吉林石化公司が中心となって、原料の多元化、産業の高度化に向けた積極的な取り組みを展開している。中韓FTAが締結・発効した場合、吉林省の自動車産業と石油化学産業はいずれも挑戦的な状況に直面し、大きな影響を受けることになるだろう。そのためには、二大基幹産業における韓国との産業内貿易の分業体制を強化し、相互補完効果を最大限に発揮させ、産業の高度化を図ることが重要である。

第三に、機械・電子、光学、医療機器は、資本・技術集約型かつ高付加価値の産業である。吉林省は長春国家光電子産業基地を中心に産業集積の活性化を図っており、光ディスプレイ、レーザーの生産・加工、光電設備、自動車電子、電力電子、半導体部品、ソフトウェアなどの産業育成に力を入れている。これらの産業は韓国と水平競争関係にあるため、中韓FTAが締結・発効した場合、輸入関税が撤廃され、双方の競争が激しくなると考えられる。その一方で、これらの産業において吉林省と韓国の産業内貿易が拡大する可能性もあり、吉林省政府にとって産業内貿易の分業体制形成に向けた具体的な対応策が求められる。

第四に、中韓FTAは吉林省と韓国の経済・産業発展に多くの利益をもたらすと同時に、産業分野によっては一部の吉林省内企業に大きなネガティブな影響を与える可能性もある。したがって、中韓FTAが締結・発効した場合の

具体的な影響評価を把握し、一層の精査を行い、ネガティブな効果になる可能性がある産業分野、企業への支援策を組み立てるべきであると考ええる。

参考文献

- [1] 蔡蕊 (2008) 「加大貿易合作推進中韓FTA取得双赢」、『当代韓国』2008年冬季号
- [2] 許興鎬 (2009) 「中韓建立FTA的進程與阻力」、『科技經濟市場』2009年第4期
- [3] 魏巍 (2010) 「論中韓FTA的可行性及其經濟効応」、『予測』2010年第1期
- [4] 車松虎 (2010) 「中韓FTA争論産生的背景分析」、『中国経貿』2010年第8期
- [5] 劉昌黎 (2008) 「論中韓FTA」、『世界經濟研究』2008年第4期
- [6] 이장규 (2003) 『중국의 서비스산업 개방과 한국의 대응방안』 한국대외경제연구원
- [7] 이창영 (2009) 「한중 FTA 금융서비스협상 대중국 쟁점 이슈 분석」、『현대중국연구』10권 2호
- [8] 정인교 (2006) 「한·중 FTA 경제효과 추정」、『국제경제연구』제12권 제1호、한국국제경제학회
- [9] 조현준 (2007) 「중국 FTA 정책의 정치경제적 목적과 결정요인」、『동북아경제연구』19권 1호
- [10] 최문·윤승현 (2011) 「한·중 FTA 협상에서의 주요 산업의 품목별 원산지기준 제정에 관한 연구」、『中國과 中國學』제14호
- [11] 朱永浩 (2013) 「接近する中・韓－かつての敵対関係が変化」、『エコノミスト』91巻27号 (通巻4292号)、毎日新聞社
- [12] 朱永浩 (2013) 「中韓經濟關係の現状与展望」、『亞洲研究』第66期、香港珠海学院亞洲研究中心